

歴史を感じる

安田会長の「まちばたけ温故知新」

のコーナー

シリーズで、地域の歴史や名所を紹介していきます。

第一回は「桜ヶ丘団地」の歴史を取材してきました。

昭和三十年代の本校の生徒数は少なく、新設の桜ヶ丘小学校に統合される危機さえあったほどでした。しかし、このような苦しい中に希望を持たせてくれたのが、昭和三十八年の春から始まった当時東北最大級を誇る第一桜ヶ丘団地の造成工事でした。

先祖代々の地域に住んでいる苦米地守さんによると、開発当初水道が無かったので、高清水神社（二丁目付近）までわざわざ桶をかついで湧水を汲みに行っていたそうです。しかも、まだ未舗装なため雨が降ると道がぬかるみ、足を取られて大変だったと述べられています。この団地は私営ということもあり、公金が投入されにくかったことが原因とのこと。このハンデを解消できたのは、住民が協力し合って「町づくり」に積極的にかかわったことによるのです。

「人の和」を大切にしながら成長してきた地域の歩みから、私たち会員も学ぶことが多いと思います。

PTA会長 安田勝寿



←苦米地さんから提供していただいた、桜ヶ丘団地の古い写真です。

写っているのは、昭和40年前後の桜ヶ丘団地です。苦米地自転車さんから、桜ヶ丘2丁目方面の原田酒店方向に向けられて撮られています。

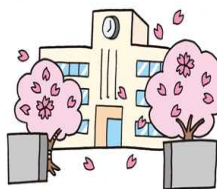
左側手前の建物が現在の「町畑の家」、右側手前の建物が「原田酒店」になるそうです。

道路の形はありますが、まだ舗装されていません。

花束贈呈



がっちり握手



四月十六日(土)に八戸プラザホテルで、八戸市立町畑小学校転出入職員の歓送迎会が行われました。転出された先生方が涙する場面があったり、転入されたばかりの先生方が、緊張されているように感じる場面があったりしました。保護者や地域のみなさまと先生方で和気あいあいと語りながら、交流を深めていきました。でも、楽しい時間はアツという間に経つものです。名残り惜しい中、松橋剛志さん、安田勝寿PTA会長、蔦林洋司校長先生の固い握手で最後は締めくくられました。ほのぼのとした、とてもステキな歓送迎会でした。会場にいられた方々も心に残ったことと思います。

心温まった歓送迎会